

医療的ケア児等コーディネーターに対するアンケート調査結果【概要】

【回答者の概要】

調査依頼文を送付した札幌市が勤務地の医療的ケア児等コーディネーター（57名※R6.12時点）のうち、34名から回答あり。

- ・回答者の職種は、相談支援専門員と看護師で約7割を占める。
- ・勤務先は、相談支援専門員は、ほぼ全員が「相談支援事業所」。
- ・看護師の勤務先は「医療機関」「訪問看護ステーション」多いが、「医療的ケア児等支援センター」「教育機関（学校等）」「障害福祉サービス・障害児通所支援等事業所」にも一定数在籍。
- ・保育士、幼稚園教諭の勤務先は、「障害福祉サービス・障害児通所支援等事業所」。
- ・その他の職種の勤務先は、「医療的ケア児等支援センター」「教育機関（学校等）」「障害福祉サービス・障害児通所支援等事業所」と多岐にわたる。職種を「相談支援専門員」「その他」の両方を選択した方の勤務先は「医療的ケア児等支援センター」、「障害福祉サービス・障害児通所支援等事業所」。

調査結果

1. 医療的ケア児等コーディネーター養成研修を受講した理由(Q3)

全ての職種において「医療的ケア児等支援の知識・能力の向上のため」が最も大きな理由。

- ・相談支援専門員は「職場での加算対象であるため」（25.0%）も高い割合を占めており、制度的なインセンティブも受講動機となっている。
- ・看護師は「自己研鑽のため」（18.2%）も理由として挙げられており、スキルアップの意識が高いことがうかがえる。

2. コーディネーターとしての活動実績(Q4、Q5、Q7)

「コーディネーターとしての活動実績がある」と回答したのは全体の約4割。

- ・相談支援専門員は、約6割が「コーディネーターとしての活動実績がある」と回答しており、最も活動実績が高い職種。また、25%が「活動実績はないが、事業所でコーディネーターを配置した際の加算を取得している」と回答。
- ・看護師は、約3割が「コーディネーターとしての活動実績がある」と回答、「活動実績はなく、事業所での加算もない（加算対象ではない事業所の方も含む）」も3割以上いる。
- ・保育士、幼稚園教諭は、「わからない」、「活動実績はなく、事業所での加算もない」との回答で、コーディネーターとしての活動がまだ明確でない、または活動に至っていない状況がうかがえる。
- ・その他の職種は、「コーディネーターとしての活動実績がある」、「活動実績はなく、事業所での加算もない」がほぼ同率。

- コーディネーターとしての具体的な活動内容としては、福祉サービスのコーディネート、通学や卒後のコーディネート、情報提供、相談支援での関わりなどが挙げられている。
- また、コーディネーター以外の活動内容については、計画相談支援や、生活介護等の支援など勤務先での支援、訪問看護や保育所入所等の支援などが挙げられたが、コーディネーターとしての活動と重複しているものも多々あり、**コーディネート活動が業務の一つとなっている場合も多い**。一方で、コーディネーターとしての活動内容が明確でないことも示唆される。

調査結果

3. コーディネーターに求められる役割 (Q11)

最も回答数が多かったのは「医療的ケア児者のニーズを踏まえた多様なサービスの調整」(22名)。

次いで、「医療的ケアに関わる情報共有や連携」(16名)、「医療的ケア児者の相談支援(計画相談、基本相談)」(15名)、「地域における課題整理」(14名)、「就学・就園・保育所入所等の支援・調整」(14名)が上位。

⇒札幌市内のコーディネーターには、医療的ケア児者の個別のニーズに応じた多様なサービスの調整を中心に、多機関との連携、情報共有、相談支援、地域課題への対応、そしてライフステージを通じた継続的な支援が求められている。

4. 札幌市内のコーディネーターの課題(Q12、Q6、Q10)

回答者の約8割が「位置付けや役割が明確でない」ことを課題として挙げている。

⇒コーディネーター自身が業務範囲や求められる役割を理解し、効果的に活動するための基盤が不足しており、コーディネーターとしての具体的な活動内容や成果の定義が曖昧であることが、活動の実態が見えてこないことにつながっていると推察。

他に「活動が十分にできていない」(8名)も課題として挙げられている。

活動実績がないと回答した方の活動できない理由として、「現在の職場の配置として直接的な対応が困難」、「医療的ケア児と関わることはあるが、勤務先でコーディネーター的な役割を求められていない」ことなどが挙げられている。

⇒コーディネーター自身の勤務先における役割や業務内容との兼ね合いと、コーディネーターの活動内容の不明確さが、活動できてない理由につながっていると推察。

その他、医療的ケア児等支援の専門性を持つ人材の確保が困難であることや、医療機関をはじめとした関係機関との直接的な連携が不足していることなどが課題として挙げられている。

また、医療的ケア児者やご家族との困り事としては、医師との連携方法、利用できる事業所の少なさ、移行期支援の困難さ、家族の相談機関の不足、関係者間の連携の難しさなどが挙げられている。



調査結果

5. コーディネーターの課題解決に向けた必要な取組(Q13)

課題解決に必要な取組として多かった回答は、「コーディネーターの役割を明確にする」(19名)、「コーディネーターと関係機関が連携できる仕組みをつくる」(11名)、「コーディネーター同士が繋がりを持てる場をつくる」(5名)。

⇒サービス調整が円滑に進むよう、コーディネーターと医療機関、相談支援事業所、教育機関などと連携できる体制や、コーディネーター同士が、情報交換や事例共有が可能となる体制を構築することで、コーディネーター自身の能力向上にも繋がり、支援の向上が図られると推察。

調査結果を踏まえた今後の取組案

①コーディネーターの役割の明確化と周知

札幌市と関係機関が連携し、コーディネーターの具体的な役割、期待される成果、活動範囲を明確にし、周知することにより、コーディネーター自身だけでなく、関係機関や医療的ケア児等とその家族も、コーディネーターに何を期待できるのかを理解できるようする。

②多職種・多機関連携の推進と仕組みづくり

コーディネーターが医療機関、福祉サービス事業所、教育機関などと円滑に連携できるような具体的な仕組みを構築する。

③コーディネーター間のネットワーク構築と情報共有の促進

コーディネーター同士が集まり、情報交換や事例検討ができる場を設けることで、互いの知見を深め、課題解決に向けた連携を強化する。

これらの取組を通じて、医療的ケア児等コーディネーターがその専門性を十分に発揮し、医療的ケア児等とその家族がより質の高い支援を受けられる。

💡 具体的な取組方法は？

💡 その他必要な取組は？